

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 4 号

2011 (平成23) 年 7月16日 (土)

仁の心

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

「仁」という文字は、左側が「人」を表し、右側は、漢数字の「二」を表しています。つまり、人間が二人並んでいることを意味し、人と人が親しむ様子を表している漢字で、「真心から人を思いやる」ことを言います。論語の中で最も多く用いられている大切な言葉です。

従って、冒頭(最初)の「仁の心」とは“他人を思いやる心”という意味になるわけです。

先月、ある塾生から一通のお便りをもらいました。その最後に、「これからは是非、論語塾を続けて、仁の心を持つ人になりたいと思います。」と言う決意が綴られていました。

感激で涙が出ました。私の長い人生の中でも、これほど勇気付けられ、やる気を起こさせてくれた言葉は初めてのことです。

この塾生の思いを大切に受け止め、一人でも多くの人に「仁の心」を伝えていけるよう今後も努力していきたいと思っています。

《一口メモ》

新田先生がしばしば使う言葉の意味をしっかりと覚えましょう。

1. 素読→意味などわからなくても大きな声を出して読むこと。
2. 章句→文の中に書いてある言葉。つまり、文章のこと。
3. 引用→話をしている途中に、他人の言葉を用いて話すこと。
4. 復唱→繰り返して読むこと。

☆ 塾生紹介 ☆

今回より、塾生の自己紹介を掲載します。先生自身も含め、早く名前と顔が一致できるといいですね。

石井 雄大君 < 氏 名 > 横尾 梓未さん

教育大学附属札幌小学校・3年 < 学校 (幼稚園) 名・学年 > 札幌市立円山小学校・2年

算数 < 好きな教科 > 図工・国語

スポーツ (テニス) < 趣味 (好きなこと) > 本を読むこと

お父さん < 尊敬する人 > 新田先生

いつも教えてくれてありがとうございます < その他 > 毎回、わかりやすい講義ありがとうございます。補助テキストも理解しやすく、親の助言も必要ないくらいです。(保護者より)

お父さんの高校時代は、まじめで一生懸命 < 先生からのコメント > 尊敬する人を新田先生と書いてくれて、すごく嬉しいのですが、少しテレてしまいます。梓未ちゃんの優しい気持ちを、いつまでも、持ち続けて下さいね。